

【集約】学校法人 コミュニケーションアート 大阪ウェディング&ホテル・IR専門学校 学校関係者評価委員会

【2022年12月13日実施】

令和3年度(2021年度)自己点検自己評価(令和3年4月1日～令和4年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価(平均)	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3	<p>本校と本校の属する学校法人は、学校運営にあたり、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションとし、それを遂行するために、「3つの教育理念」と「4つの信頼」を基に、事業計画を作成しているからこそ、健全なものとなっている。</p> <p>また、理念・経営者の言葉等々を文書化し、組織内への浸透、新入職者へのわかり易い提示により、活性化に繋がっている。理念は変わらないが、目的や育成人材像は業界から遊離したものであってはならない。常に業界と共にあるという姿勢を忘れないことである。</p> <p>業界もコロナ禍で様変わりしている。旅行やイベントの開催などに対して是としない風潮が漂う状況でいかに売上を確保し、企業を存続させていくのかを模索している。</p> <p>こうした社会や環境の変化にも素早く対応し、また提案が出来る人材の育成を目指す。</p> <p>また、「産学連携教育」の更なる実践を目指し、より多様に、より深く、より強く、業界との繋がりを持つことが必要である。</p>	<p>「実学教育」 スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>「人間教育」 開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>「国際教育」 コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う</p>	3	<p>理念・目的・育成人材像は明確に定められており、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ミッション遂行のために「3つの教育理念」と「4つの信頼」を基に事業計画が具体的に策定できている。また、産学共同教育システムによる企業プロジェクトなど、今後とも他校との違いや強みを明確にして、独自の教育方針と理念により、これからの業界を牽引できる即戦力の優れた人材を輩出して欲しい。</p> <p>「人間教育」非常に大切な業界だと思います。特に他人を思いやる気持ちを同僚仲間だけでなく、お客様に親切で優しい人材を輩出いただきたいです。</p> <p>教育理念・目的・育成人材等、入学前説明により方針が一貫していると思います。また、コロナ禍等の社会状況に合わせることは難しい時もあると思われませんが、迅速に対処されていると思います。</p>
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	2	<p>滋慶学園グループが計画する5ヶ年計画を上げ、各校は具体的に各年度事業計画書を作成し、その中で5年後の将来像等構想を描いている。</p> <p>諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。</p> <p>それを受け、各学校では毎年12月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための会議・研修もしている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p>	2.2	<p>滋慶学園グループが計画する5ヶ年計画を受けて、具体的に且つ適切に学校運営に向けての各年度の事業計画が策定されている。また、事業計画の組織図に全員の組織上の位置づけを明記し、各自が役割を理解して運用、運営できるシステムが構築されている。また、様々な研修や会議が設けられ、個人個人の目標設定や業務への落とし込みが出来ている。</p> <p>「職業人教育を通じて社会に貢献する」という素晴らしいミッションを判断軸に運営いただければと思います。</p>
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか					
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。ただ、コロナウイルス感染症によりサービス業界の変化が早く、この大きな変化に対応する必要がある。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学協同教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、教育委員会等で研究、見直し等を行っている。</p> <p>カリキュラムは学科(コース)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>出席率を重視するあまり、成績向上に対してのアプローチが少なく、より多くの学生たちが高い成績をいかに取めることができるかが課題となる。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、FD研修や、授業アンケートを実施している。授業アンケートでは、講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断を行い改善を図っている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っていく。</p> <p>業界講師による授業が中心の為、業界の声を取り入れ、業界の変化に対応した教育を行うことに注力していく。特にコロナウイルス感染症により、業界は激変しており、求められる能力は大きく変化している。この点をカリキュラムに反映していく必要がある。</p> <p>シラバス作成の時点で、最終目標到達までに小テストや振り返りなどの自分の到達点を確認し、課題を見つけることでより高い成績を取めることが必要。</p> <p>シラバスの内容を周知するとともに、授業の開始にはその日の到達目標を明確に伝える必要がある。</p>	<p>教育の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就職希望者第一希望職種全員就職</li> <li>2. 退学率 0% (入学者の全員卒業)</li> </ol> <p>を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。</p> <p>第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システム「産学協同教育システム」である。これには、次の6つが挙げられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①企業プロジェクト</li> <li>②ダブルメジャー・カリキュラム</li> <li>③業界研修</li> <li>④海外実学研修</li> <li>⑤特別ゼミ</li> <li>⑥キャリアセンターである。</li> </ol> <p>また教育システムのさらなる開発のため、滋慶学園COMグループ姉妹校とのシステムの共有化、レベル向上化を図っている。主な部会内容は、①教育指導法 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④全国企業プロジェクト ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業・進級制作展の運営 等である。</p>	3	<p>教育活動に関しては「産学協同教育システム」により、業界と乖離することなく、業界での即戦力となる人材を育成し輩出するための体系的なカリキュラムが適切に構築できている。今後ともアフターコロナでの社会環境の変化の影い時代のトレンドを読みながら、柔軟に対応したカリキュラムが求められる。</p> <p>社会(企業)や学生の求めるものが、時代や環境とともにすさまじいスピードで変化していると思います。情報収集は非常に大事かと考えます。</p>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか					
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか					
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか						

4 学習成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、就職希望者全員就職・退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。 開校以来、就職希望者全員の就職を達成しているが、就職後の離職率低下及び「食」にとらわれない幅広い分野・業界・職種・企業への就職も新たな課題として取り組んでいる。 退学者では、開校以来、様々な取り組みの努力を重ねた結果、全体退学者率は低下しており、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの改善改革、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学者0%達成に向け、努力を惜しむことはない。 退学者0名に向けては、夏休み前後に個別面談を実施。また、後期スタートと同時に再度面談を行い、進路変更の希望にも細かく対応し、退学者0名達成を目指す。 教務・広報・就職スタッフ間の情報共有を進めることで、就職後のフォロー体制を強化し、離職率低下を目指す。また、内定獲得後の学生への指導（社会人基礎力・一般常識・学力等）にも注力し、知識・技術に留まらない人間力の向上を目指す。 幅広く活躍出来る人材へと成長すべく、挨拶・礼儀・立ち居振る舞いといった基礎的な力を更に磨きながら、今後のビジネスパーソンにより必要とされる語学力・IT基礎力・マネジメント力も日々の教育に積極的に取り入れる。	3	教育成果の1つである就職は、年々専門就職率が向上しているが、100%を達成すべく努力を続けている。また、多くの学生が夢を叶えて就職出来るよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。 退学者では、個別カウンセリングの体制をより強化し、1人でも退学者を出さない学校になるべく注力している。今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。	教育成果に関しては、開校以来、就職希望者の全員就職を目指している。今後とも退学者ゼロを達成できるように、学生に対しての上級生によるメンター制度構築と運用の充実、個別カウンセリングによる生徒の心のケアが急務である。  企業側の意見ではありますが、地方に行けばいくほど人材不足悩まれている感があります。(リゾートホテルなど)就職先として単身での関西以外のエリアへの就職先紹介をされてはいいかでしょうか？			
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか								
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか								
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2	本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。 しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果が無い。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。 学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者も置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援を行っている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。 ③学生生活については、担任及び副担任制により行いが、それ以外にもSSC(スチューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニック大阪が担当し、在学中の健康管理を支援している。 また、衛生分野の学校として、万全の新型コロナウイルス感染拡大防止については、最大限の予防に努めている。入校時の検温・消毒、入室時の検温・消毒、共有部分の消毒、ソーシャルディスタンスという基本的な予防だけでなく、フェイスシールドの着脱、昼食時の教室ならびに座席指定、昼食時または試食時のマスクを外す時間の短縮、階段を使用時の移動など、特に、陽性者だけでなく、濃厚接触者を学内から出さない徹底した対策をとっている。 総括にあげたものの中で改善すべきところは、就職の部分でもっと就職活動を積極的にしていけるよう、卒業生の話をもっと聞く環境を増やすことが必要と感じている。業界人としてまたは卒業生としての両面で話ができる先輩からのアドバイスを聞き、もっと積極的な就職活動につながると考える。  また学生一人ひとりをしっかり見ていく体制強化する為「個別カウンセリング活動」なども見直ししながら、実行していく必要がある。  新型コロナウイルス感染予防の点では、マスクの着用、手指の消毒徹底は浸透している。一番リスクの高い昼食時の黙食をさらに徹底し学内で感染させないためにも注意喚起やスタッフの見回りなど学校全体としての予防に務める。	①「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報等を学生が自宅のパソコンや携帯でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をし、迅速な対応ができるように支援している。 ②事務局会計課に学費の分納等に関する相談窓口を設置し、ファイナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また学内にも学費相談担当者を置き、学生達の相談に炊事対応できる体制を整えている。日本学生支援機構の奨学金を利用する学生が多いため、教務部に奨学金窓口を設置している。今後実施されるであろう学費減免制度についても、柔軟に対応できる体制を構築する。 ③即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。 ④新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業期間中であつたとしても、オンライン授業の構築ならびに、学校再開に向けての準備を行った。また感染拡大マニュアルを作成し、学生だけでなく、講師・教職員に徹底することにより、安心して学校生活を送ることができるよう努めている。	3	学生支援に関しては、新型コロナの感染拡大と長期化の中でもオンライン授業の構築と実施、感染予防の徹底により、安心して学校生活を送れるように配慮し、在学中の学生たちへ健康維持管理と自立的行動を支援できている。また、キャリアセンターの専任スタッフ配置による就職の相談と斡旋、面接指導が実施されている。今後は学生数の増加に伴い、より一層の支援体制を強化する必要がある。  非常に充実されていると思います。  コロナ禍で苦戦を強いられていた時期から様々な方法で学校サイドから支援を行っていた点やTeams等のオンラインシステムを導入し情報共有や個別の相談等が気軽に行える環境になったことは学生にとっても非常に心強いサポートだったのではないかと思います。			
	5-17-1 退学者の低減が図られているか								
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか								
	5-18-2 留學生に対する相談体制を整備しているか								
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか								
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか								
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか								
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか								
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか								
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか								
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか									
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか									
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2	本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であると、完備されていると考える。 業界標準の最新設備を備え、即戦力としての技術を身に付ける学内環境が整備されているといえる。	2.2	教育環境に関しては、他校に比べて最新設備を備えて完備され、有効に運用されており、即戦力としての技術を身に付ける学内環境が整備されている。また、新型コロナの影響を受ける中、感染拡大防止の諸対策を実施し、今後も安心安全の学びの場を提供し続けて欲しい。  充実されていると思います。  施設・設備の劣化は仕方ない部分ではあるものの、対お客様にお見せする際にどう対処するのか、また事前に修繕する等の報告を学生から学校へ行わないといけないう意識を学生が持てるように伝えていく必要もあると思いました				
	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか								
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか								
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか								
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか								

7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ	<p>7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか</p> <p>7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか</p> <p>7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか</p> <p>7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか</p> <p>7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか</p> <p>7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか</p>	2	<p>本校は、大阪府専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(AO 入学等)を遵守している。</p> <p>また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学校募集ができるように配慮している。さらに、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しているが、入学選考後は、「入学選考会議」により、可否を決定する。</p> <p>なお、本校における入学選考は、学生募集要項にも明示している通り、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準となるのは、「目的意識」である。</p> <p>将来目指す業界への職業意識や具体的な目標がしっかりとっているかを確認すると共に、その目的が本校より提供する教育プログラム及びカリキュラムにおいて実現可能かを確認するもので、入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	2.4	<p>学生募集に関しては、体験入学や説明会を通じて、本来の特色と強みを十分に伝えて理解の上で出願していただき、入学選考も適正かつ公平な基準に基づき選考出来ている。また、新型コロナ禍により、ホテル業界、ブライダル業界は大きな影響を受け、保護者の方々の心配度も増していると思われるが、今後も入学目標学生数を達成できるようにたゆまぬ努力が必要である。</p> <p>卒業される学生、ご両親の評価が第一かと思います。少子化の中未来に向けての戦略が大事になってくると思います。</p>
8 財 務	<p>8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか</p> <p>8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか</p> <p>8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか</p> <p>8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか</p> <p>8-30-1 私立学校法及び審判行為に基づき、適切に監査を実施しているか</p> <p>8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか</p>	2	<p>財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。その中で予算(収支計画)は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。</p> <p>毎年、次年度事業計画を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもろもろのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前に組んでおくのが目的である。ただ、近年学生募集において中長期で立てている学生数通り募集ができていないのが課題で、そのため中長期の計画に変更が生じることがある。</p> <p>コロナウイルス感染症などの不足の事態が起きた時のために予備予算などの編成の見直しが生じた。</p> <p>5ヶ年の予算は、5ヶ年を見越した中長期的事業計画内で、新学科構想、設備支出等について計画し、将来の学生数、広報・就職計画を鑑みながら予測し、収支計画を作成するが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするため、より現実即した予算編成となっており、健全な学校運営ができていくと考えている。</p> <p>ただ、中長期の学生募集に計画と隔たりがある。</p> <p>会計監査は、法人及び学校の利害関係者に対して、法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために、第三者による監査人が法人とは独立し計算書類が適切かどうかを監査することを意味する。</p> <p>平成17年4月から私立学校法が改正され、学校法人の財務情報公開が義務づけられたが、これに迅速に取り組み、「財務情報公開規程」及び情報公開マニュアルを作成し、現在に至っているが、財務情報公開の体制は整っている。</p> <p>課題としては安定した収入を得るためには定員充足の取り組みが必要不可欠である。</p>	2.2	<p>財務に関しては、中・長期予算に基づき運営されており、会計監査が適切に行われている。開校以来、学生数獲得の増加傾向にあったが、新型コロナ禍により中長期で立てている学生数の獲得が出来ておらず、修正予算策定を余儀なくされたが、実現可能な予算編成により達成を目指していただきたい。</p>
9 法 令 等 の 遵 守	<p>9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか</p> <p>9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか</p> <p>9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか</p> <p>9-34-2 自己評価結果を公表しているか</p> <p>9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか</p> <p>9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか</p> <p>9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか</p>	3	<p>法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。</p> <p>法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。</p> <p>①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査 等である。</p> <p>組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。</p> <p>(A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) ⑤総務人事委員会(滋慶学園グループ) ⑥学校関係者評価委員会(第三者) ⑦教育過程編成委員会(第三者)</p> <p>(B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ)</p> <p>滋慶学園グループと全体というスタールメントを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができていく。</p> <p>法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。</p> <p>教職員が学園の方針を理解し実行に努めるとともに④⑤に関しては、外部の委員の方々からのご意見を学校運営、教育過程に反映することに努める。</p> <p>今後も第3者委員会などの開催なども検討し、教職員が法令遵守の意識を保てる取り組みが必要。</p>	3	<p>法令順守に関しては、個人情報保護をはじめ、学内設置のコンプライアンス委員会を通じて、学内のコンプライアンスが周知徹底されている。</p> <p>社会的にコンプライアンス問題が企業を揺るがす時代になってきています。様々なシステムや管理体制に時間、労力、費用を要する思います。引き続き強化いただければと思います。</p>

10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2	<p>本校には、「3つの教育理念」(「実学教育」「人間教育」「国際教育」)を實踐し、「4つの信頼」(①学生と保護者からの信頼、②高等学校からの信頼、③業界からの信頼、④地域からの信頼)を得られるように学校運営をしている。</p> <p>この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。例えば、業界企業や団体、あるいは中学校・高等学校等の教育機関とタイアップして行う、出張授業支援やクラブ活動支援、また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。また、社会福祉に関するバザーなどへ出店することで、地域貢献に積極的に参加している。オンライン環境を活かした社会貢献について、まだ具体的な取り組みが出来ていない、持続可能な社会について考察を行う機会が持てていない状況である。</p>	<p>本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を行っている。</p> <p>①近隣幼稚園にて職業体験 ②リアルウェディングプロジェクト ③業界企業とタイアップして行う企業プロジェクト ④中学校の職業理解支援等々 年間を通じ教職員や各コースの学生達が、それぞれの特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。</p> <p>そういった活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりが、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。</p> <p>今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。</p> <p>コロナ禍で海外実学研修が実施できない状況の中、現地提携校よりオンデマンドの教育教材の提供を受け、履修学生の学びが実現できた。</p>	2.4	<p>近隣幼稚園での職業体験、諸事情で結婚式ができなかった方へのウェディング提供、業界企業とタイアップして行う企業プロジェクトなど幅広く意義のある活動を実施している。今後は地域社会への貢献の一環として、学校周辺のゴミ拾いや公園の環境整備のお手伝いなどで近隣の住民との相互理解やボランティア精神を養う活動が必要かと思われる。</p> <p>社会貢献活動はサービス業にとって大切な精神であると考えます。御校の活動の中で学生が人のお役にたつ、社会のお役にたつことが喜びであるということに気がついてくれると嬉しいです。</p> <p>コロナ禍で外部との連携がとりづらくなったかと思いますが、学生の内に経験しておくことの大切さや行動に移してから実感することもあるかと思っておりますのでより様々なプロジェクトを行っていただきたいと思っております。</p>
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか					